



海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第 1704 回例会

平成 24 年 5 月 21 日(月)

12:30～ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング 「それでこそロータリー」
3. ゲスト紹介 三井住友銀行 和歌山法人営業部長 池田 敏男 様
米山記念奨学生 代 向斐 様
4. 出席報告
会員総数 60 名 出席者数 41 名
出席率 69.49% 前回修正出席率 72.88%

5. 会長スピーチ

会長 田村 健治 君

皆さん、一生に一度の宇宙ショー金環日食、見られましたか？

大相撲で、38 歳の最高齢幕内力士が優勝しました。“継続は力なり”ですね。

この 1 週間、地区関連の新しいニュースはありませんでした。

世の中には、これまで当たり前常識と思われていたことが、新しい科学的な研究により、間違っているのが分かったという事例が少なからずあります。そこで、本日は私の職業と関連した興味ある一例に出会いましたのでお伝えしたいと思います。

ここ数年、急速に販売量を増加させているカロリーゼロ、カロリーオフ食品ですが、こういった食品に含まれる人口甘味料が、肥満や糖尿病の原因になる可能性があることが最近の研究で明らかになっています。カロリーゼロという表示を見ると、何となく安心して購入してしまいがちですが、その行動が逆に肥満を助長させるというのですから驚きです。そもそも人口甘味料は、「糖分摂取制限の必要な人のみの使用」とされてきました。つまり、病気の人に対する薬のような物だったのです。ところが、昨今のように人口甘味料が急速に普及してきたため、メタボ予防といった世の風



潮から、健康な人も含めて多くの人が手軽に摂取できるようになっているのが現状です。このため、正常な代謝機能を有する人でさえも、人間の「生理的反応」によって、いつのまにかメタボリック症候群へとつながっていくそうです。

この「生理的反応」には、食物から得られるカロリーをエネルギーに変換するというものがあります。ところが、人口甘味料にはカロリーが無いので、熱に変換できず、自然と体がエネルギーを要求するので、逆に食欲を増進させてしまうのです。また、ボストン大学の研究グループによると、人口甘味料の摂取がインスリンの分泌を上昇させるという研究結果を報告しています。つまり、血糖値の上昇が無いのにインスリンの分泌によって血糖値を低下させるため、空腹感だけが残るのです。よって、もし人口甘味料を摂取し続けると空腹感も増加し続け、食欲は増加することになるのです。このように、人口甘味料の継続的な摂取は、人間の「生理的反応」によって逆に食欲を増進させ、肥満になる原因を作ってしまうようです。もちろん、過度の摂取という条件ではありますが、肥満対策やダイエットに人口甘味料という安易な手法を用いることのリスクを警告していると捉えて良さそうです。何事においても近道はなく、近道には様々な危険があるということなのかもしれません。栄養士によると、朝昼晩と規則正しい食事を摂ることが、血糖値の安定に一番だそうです。規則正しい生活の積み重ねが、日々の健康を作る、何事においても言えることではないでしょうか。

6. 幹事報告

幹事 山畑 弥生 君

○メーキャップ

中村 雅行君 和歌山東南 RC 5 月 16 日
谷脇 良樹君 地区社会奉仕委員会 5 月 17 日

○例会臨時変更のお知らせ

海難西 RC 6 月 21 日(木) → 6 月 24 日(日)
(岐阜県華嚴寺方面 西国巡り)

○休会のお知らせ

海南 RC 5 月 30 日(水)

7. 委員会報告

○社会奉仕委員会 委員長 魚谷 幸司 君
たんぽぽの会から礼状が届きました。

四つのテスト 言行はこれにぞらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長: 田村 健治 幹事: 山畑 弥生 SAA: 岩井 克次

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail: info@kainaneast-rc.jp

海南東ロータリークラブ 様

先日はカヌー乗船の交流会を催して頂き、本当に有難うございました。子供たちはカヌーはもちろんのことハワイアンダンス、アフリカンダンスも喜んでいて、また、来年もパフォーマンスに来て頂けたらと話しています。お弁当も美味しかったです。今後とも、どうぞ、よろしくお願いします。

海南たんぽぽの会

7. ゲスト卓話 三井住友銀行 和歌山法人営業部長

池田 敏男 様



本日は「観光を切り口にした地域活性化」をテーマにお話しさせていただきます。ご当地海南地域におきましては、既に様々な先進的なお取組みをされていることは存じ上げております。更なるステージに進まれる際のご参考になればと存じます。

地域活性化を進める上で生涯が3つあるようです。①儲ける発想のない活動②担い手の減私奉公③兼業による片手間・中途半端な取組み。

根底に、地域活性を「稼げる」ビジネスとして捉え直すことが大切です。「まちづくりをデザインしてプロジェクトを牽引しようとする企業」が中核となって、「リスクもとるが、稼ぎます！」という発想が必要です。

行政に頼るのではなく、民間で「ヒト」「モノ」「カネ」を集めて「合理的なビジネス」として立ち上げることが期待されます。皆様方がビジネスされる際には、ごくごく当たり前のことで、当然お金も必要です。民間ファンドを設立して、投資資金を集める。銀行から融資を受ける。沢山の関連当事者を纏めていく必要があります。「投資妙味のある事業」であることが求められます。SMFG では日本総合研究所というシンクタンクが全国各地での斯かるお取組みをお手伝しております。

最後に、ノブレス・オブリージュという言葉をご紹介します。社会的地位の高い者はそれに応じて果たさねばならぬ社会的責任と義務があるという、欧米社会における基本的な道徳観です。地域活性化のお取組みが更に進展されますことを念じまして、拙いお話でございましたが、締めさせていただきます。

本日はご清聴有難うございました。

8. 閉会点鐘

次回例会

第 1705 回例会 平成 24 年 5 月 28 日(月)

12 : 30 ~ 海南商工会議所 4 F

研修例会



ニコニコ・BOX

楠部 賢計君

金環日食を見て感動しました。25 年前は見たかどうかわかりません。18 年後に北海道に見に行くため、長生きします。

吉川 博之君

住友金属工業 労働安全衛生社長賞が産業医をしている会社に贈られました。

上中 嗣郎君

お見舞い、有難うございました。



国際ロータリー ニュース

世界の貧困との闘いをロータリアンに訴える

2012 年 RI 国際大会の第 2 回本会議では、貧困と飢餓に関する講演にスポットライトが当てられ、世界的に著名な講演者が、これらの世界的問題に取り組むロータリアンの力について熱弁を振るいました。

マイクロファイナンスの父として知られるノーベル平和賞受賞者、ムハ



マド・ユヌス氏は、貧困に苦しむ人々のために小口融資支援を行っているロータリアンに感謝の言葉を述べました。グラミン銀行の創設者であるユヌス氏は、小口融資を受けた事業と協力するソーシャルビジネスの機会を追求する大切さを語りました。このような事業は、収入だけでなく、地域に恩恵をもたらします。

ユヌス氏は、ソーシャルビジネスの一例として、バングラデシュの子どもたちのための高栄養ヨーグルトを生産する、グラミン銀行とヨーロッパの食料品企業ダノン社による共同事業を紹介しました。この共同事業は、子どもの栄養失調を解消するだけでなく、生産ラインの立ち上げによって雇用機会を改善することを目的としています。

「今日の世界では、人々は問題を解決するためでなく、お金を得るためにお金を使っている」とユヌス氏。「ビジネスの枠内で創造的にお金を使用できれば、どんな問題も解決できるはずです」グラミン銀行はまた、1 足 1 ドル以下の靴を生産することを目的に、アディダス社とも提携しています。安価な靴を買うことができれば、貧しい地域で足から感染する疾病を防ぐことができます。

「私の夢は、世の中から貧困をなくし、子どもたちが博物館を訪れて貧困とは何かを学ぶような未来を築くことです」